改訂モデル・カリキュラムに基づいた
薬学実務実習に関する事前調査結果

2015年度　パターン2
（2016年1月）

近畿地区　病院および薬局

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

近畿地区大学
　　14大学（国立2、私立12）
　　6年制学部生定員計：2,395名

調査の背景（病院・薬局）

府県	病院						薬局						
	依頼件数	協議会への回答				近畿地区への回答	依頼件数	協議会への回答				近畿地区への回答	
		回答数	回収率	薬剤師数	指導薬剤師数			回答数	回収率	薬剤師数	指導薬剤師数		
滋賀県	25	18	72.0%	0～40	0～7	19	102	72	70.6%	1～14	0～3	73	滋賀県
京都府	64	56	87.5%	0～82	0～16	55	179	106	59.2%	0～25	0～6	82	京都府
大阪府	166	124	74.7%	0～57	0～11	137	552	281	50.9%	0～19	0～5	258	大阪府
兵庫県	140	96	68.6%	0～82	0～17	105	396	321	81.1%	0～23	0～7	296	兵庫県
奈良県	32	22	68.8%	0～63	2～19	24	97	74	76.3%	1～18	1～6	64	奈良県
和歌山県	21	17	81.0%	2～47	0～9	20	64	49	76.6%	1～8	0～2	48	和歌山県
計	448	333	74.3%		1,190名	360	1,390	903	65.0%		1,835名	821	

＊「薬剤師数」は、未記入の場合には「0」として扱っている

＊「近畿地区への回答」は、近畿地区調整機構独自の調査に関して回答があった施設数

受入れ可能人数(病院)

府県	受入人数(施設数)				
	全人数 (受入施設/回答施設数)	Ⅰ期 (2月中旬～ 5月初旬)	Ⅱ期 (5月下旬～ 8月初旬)	Ⅲ期 (9月初旬～ 11月下旬)	Ⅳ期 (12月初旬～ 翌年3月初旬)
滋賀県	156(18/18)	9(3)	48(16)	50(15)	49(14)
京都府	441(51/56)	12(3)	147(44)	152(44)	130(36)
大阪府	1,035(121/124)	56(23)	333(108)	354(118)	292(96)
兵庫県	605(91/96)	28(15)	195(80)	206(85)	176(70)
奈良県	139(21/22)	10(4)	49(21)	49(21)	31(13)
和歌山県	83(17/17)	1(1)	27(16)	29(17)	26(15)
合計	2,459(319/333)	116(49)	799(285)	840(300)	704(244)

受入れ可能人数(薬局)

府県	受入人数（施設数）				
	全人数 (受入施設/回答施設数)	Ⅰ期 (2月中旬～ 5月初旬)	Ⅱ期 (5月下旬～ 8月初旬)	Ⅲ期 (9月初旬～ 11月下旬)	Ⅳ期 (12月初旬～ 翌年3月初旬)
滋賀県	269(71/72)	42(30)	97(68)	91(65)	39(31)
京都府	340(100/106)	64(45)	123(94)	114(88)	39(32)
大阪府	852(273/281)	117(89)	293(226)	309(240)	133(105)
兵庫県	1,037(303/321)	152(116)	367(275)	359(266)	159(114)
奈良県	250(70/74)	31(23)	86(64)	86(65)	47(35)
和歌山県	137(47/49)	22(17)	50(43)	47(41)	18(16)
合計	2,885(864/903)	428(320)	1,016(770)	1,006(765)	435(333)

【参考資料1】近畿地区での実務実習実績

	2015年度（平成27年度）		2016年度（平成28年度）予定	
府県	病院	薬局	病院	薬局
滋賀県	138	164	123	140
京都府	279	274	274	266
大阪府	872	785	913	880
兵庫県	566	655	629	666
奈良県	125	137	139	158
和歌山県	36	33	61	61
近畿計	2,016	2,048	2,139	2,171

近畿地区以外			233	195

近畿地区大学の学生が近畿地区以外で実習を履修した人数または予定人数

近畿地区独自の調査

【参考資料2】受入時期と人数（近畿地区独自の調査）

実習時期を固定して（2通り）、それぞれの場合の受入人数を調査した。

Ⅰ．実務実習の実施の順番について、以下のどちらが良いとお考えですか。
　a)【病院実習→薬局実習】の順番が望ましい。
　b)【薬局実習→病院実習】の順番が望ましい。
　c) どちらでも対応できる。

Ⅱ．上記について、【病院実習→薬局実習】に決定した場合、あなたの施設では、それぞれの期で何名の学生を受入れることが可能ですか。
ただし、現行の受入れ人数制限（例えば薬局実習の場合1期に受入れ可能な人数を2名までとしている）は無視して、実習施設として受入れ可能な最大人数をお答えください。
　病院：1期（　　）名・2期（　　）名・3期（　　）名
　薬局：2期（　　）名・3期（　　）名・4期（　　）名

Ⅲ．上記について、【薬局実習→病院実習】に決定した場合、あなたの施設では、それぞれの期で何名の学生を受入れることが可能ですか。
ただし、現行の受入れ人数制限（例えば薬局実習の場合1期に受入れ可能な人数を2名までとしている）は無視して、実習施設として受入れ可能な最大人数をお答えください。
　病院：2期（　　）名・3期（　　）名・4期（　　）名
　薬局：1期（　　）名・2期（　　）名・3期（　　）名

府県	病　院														
	実務実習実施の順番				【病院→薬局】の場合の受入人数					【薬局→病院】の場合の受入人数					回答施設数
	a	b	c	無回答	1期	2期	3期	計	未回答	2期	3期	4期	計	未回答	
滋賀県	1	10	8	0	27	39	46	112	5	50	52	54	156	0	19
京都府	6	38	10	1	78	112	112	302	12	148	155	143	446	2	55
大阪府	4	98	34	1	184	244	257	685	33	368	386	372	1126	4	137
兵庫県	6	64	32	3	151	200	203	554	20	254	265	248	767	3	105
奈良県	0	20	4	0	32	38	38	108	7	60	58	51	169	1	24
和歌山県	3	12	5	0	21	27	29	77	6	39	43	39	121	2	20
計	20	242	93	5	493	660	685	1838	83	919	959	907	2785	12	360

＊実務実習実施の順番
　a:病院実習→薬局実習の順番が望ましい
　b:薬局実習→病院実習の順番が望ましい
　c:どちらでも対応できる

＊受入人数欄の「未回答」
　当該実習順でない方には人数入力があるが、当該順の場合の人数が未記入である件数

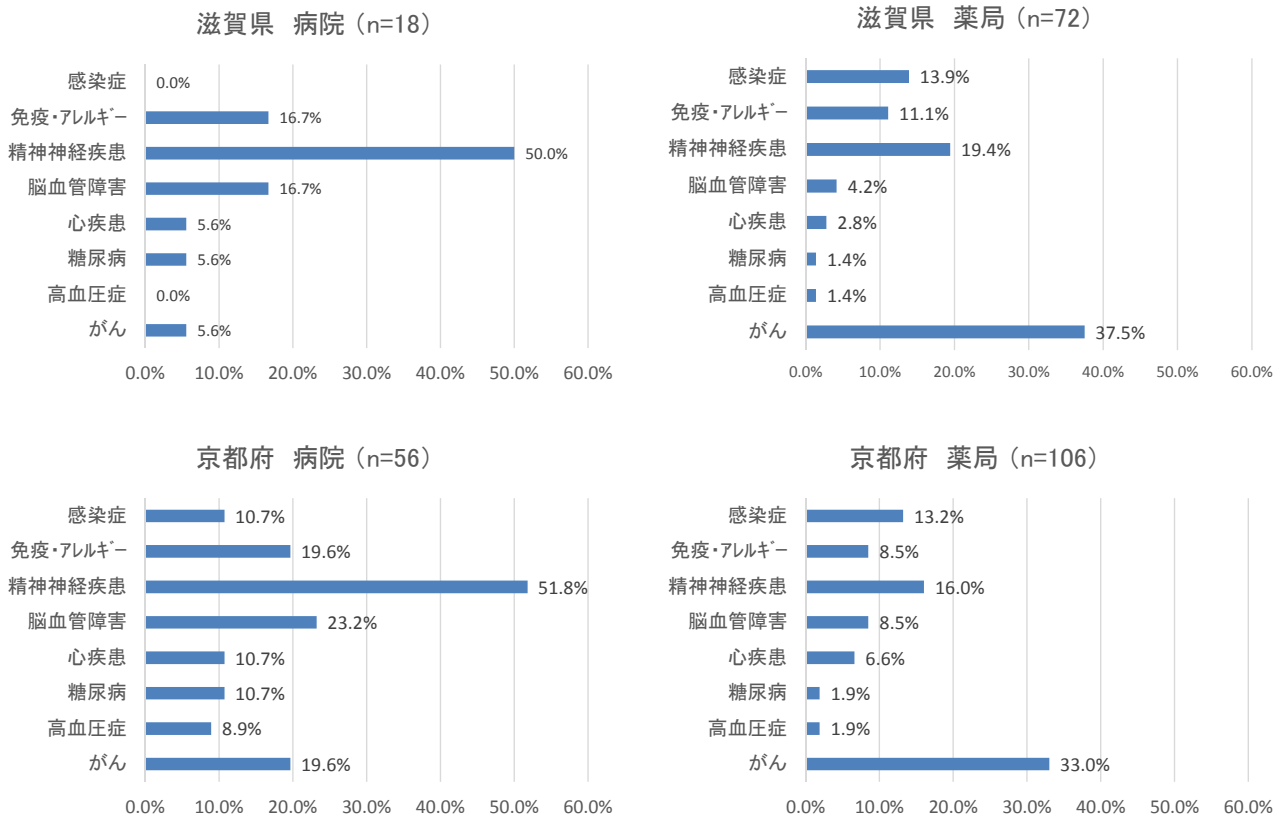
近畿地区独自の調査

府県	薬　局														
	実務実習実施の順番				【病院→薬局】の場合の受入人数					【薬局→病院】の場合の受入人数					回答施設数
	a	b	c	無回答	2期	3期	4期	計	未回答	1期	2期	3期	計	未回答	
滋賀県	23	7	42	1	94	89	61	244	1	71	84	74	229	8	73
京都府	26	10	45	1	92	86	61	239	5	62	89	79	230	5	82
大阪府	86	31	138	3	264	276	202	742	14	189	250	241	680	32	258
兵庫県	89	34	167	6	317	311	234	862	13	235	302	269	806	31	296
奈良県	20	7	37	0	73	79	63	215	1	53	63	67	183	6	64
和歌山県	23	10	15	0	44	41	30	115	2	30	40	32	102	2	48
計	267	99	444	11	884	882	651	2417	36	640	828	762	2230	84	821

＊実務実習実施の順番
　a:病院実習→薬局実習の順番が望ましい
　b:薬局実習→病院実習の順番が望ましい
　c:どちらでも対応できる

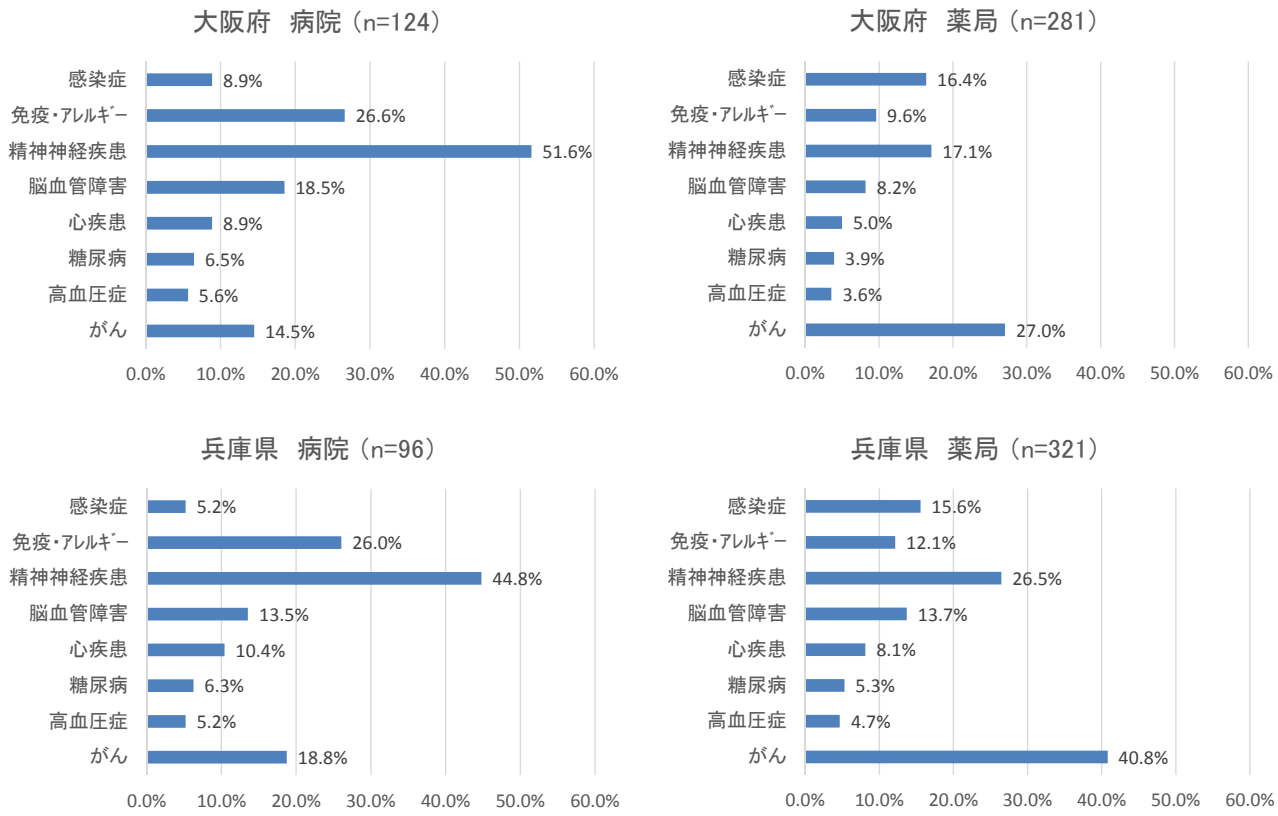
＊受入人数欄の「未回答」
　当該実習順でない方には人数入力があるが、当該順の場合の人数が未記入である件数

実習内容について　A－1



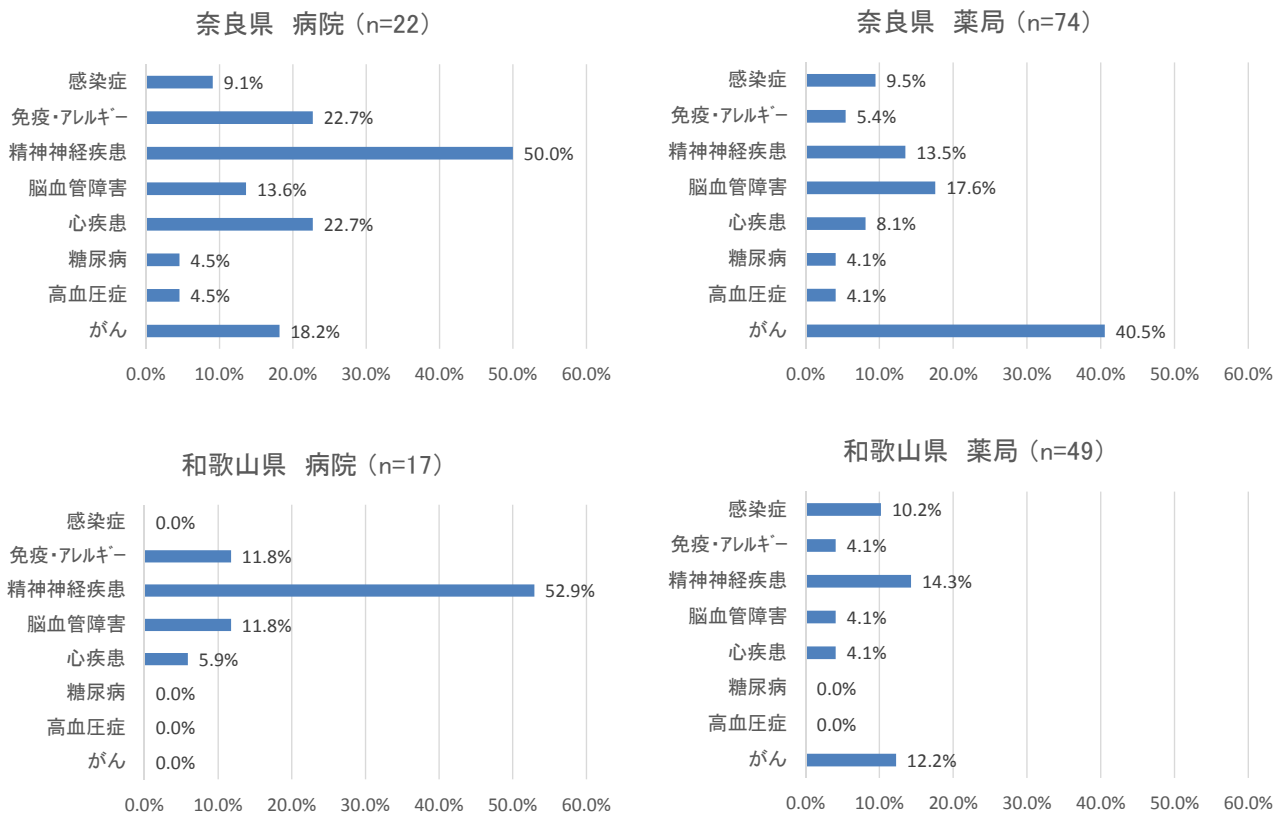
実習できない代表的疾患

実習内容について　A－2



実習できない代表的疾患

実習内容について　A-3



実習できない代表的疾患

実習内容について（薬局：B～F，O～T）-1

[B] 終末期医療の実際を体験する。
[C] 緩和ケアの実際を体験する。
[D] 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
[E] 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。
[F] 病院内あるいは在宅医療において注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を体験する。

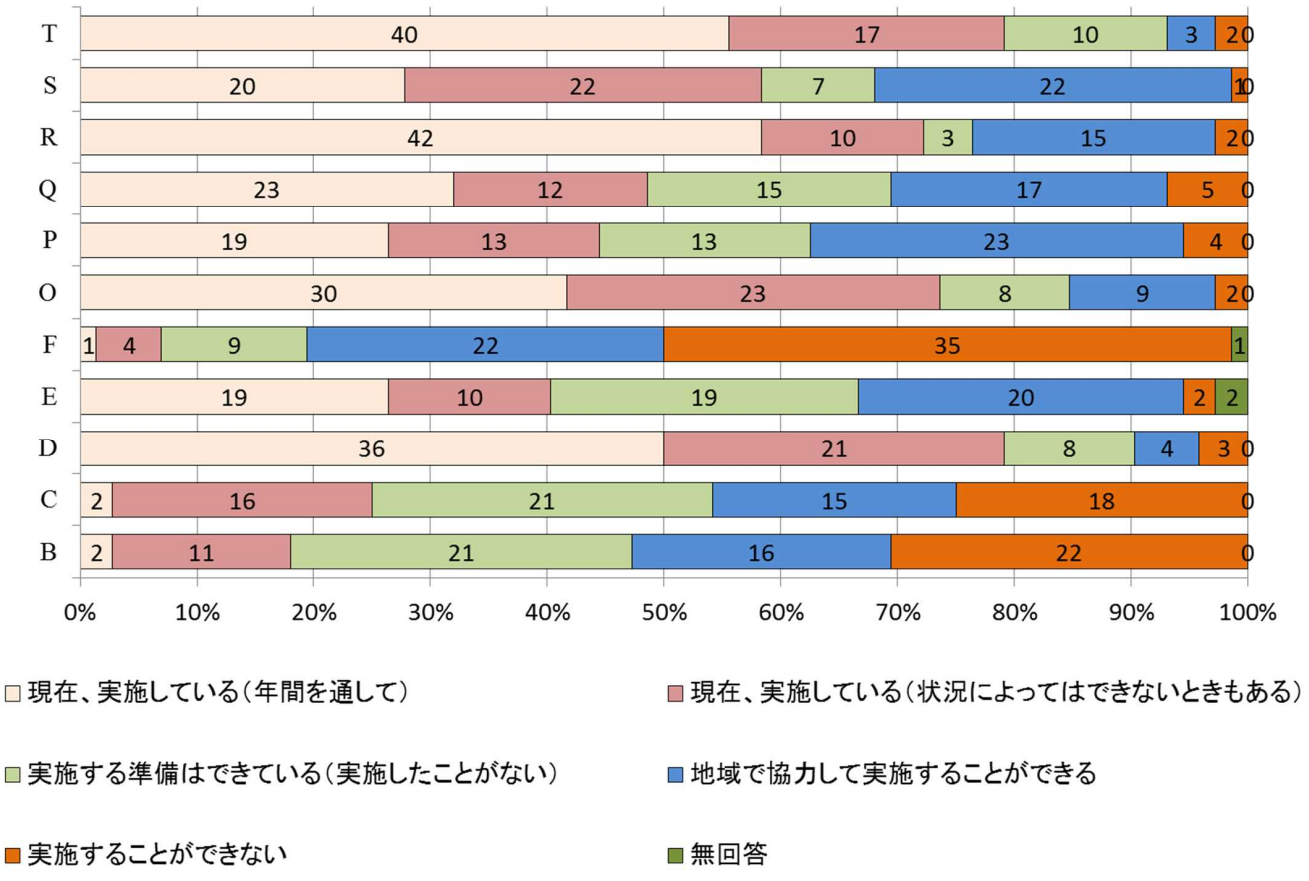
[O] 処方せん調剤における医療機関と薬局との連携や合同で開催される研修会やイベントを体験する。
[P] 地域包括センターや保健所等を通して地域で連携して行われている医療、介護、福祉の実際を確認するとともに、できるだけ実際の活動を体験する。
[Q] 薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務（収集した各種情報に基づいた薬物療法の考察と提案等）を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験し、在宅に関与する医療、介護スタッフと情報を共有し、患者をサポートする意義を理解する。
[R] 学校薬剤師の指導のもと学校薬剤師業務を体験する。
[S] 地域で行われている薬剤師の関与する保健衛生活動（薬物乱用防止活動、禁煙活動、認知症サポート等）を確認し、地域の活動に積極的に参加する。
[T] 一般用医薬品、健康食品、医療機器等について、特徴や注意点等について確認し、第一類医薬品、要指導医薬品等、法規制に則り実際の店頭で指導薬剤師とともに来局者の健康相談と販売業務（受診勧奨や一般用医薬品販売など）を体験する。

実習内容について（病院：B～F，G～N）-1

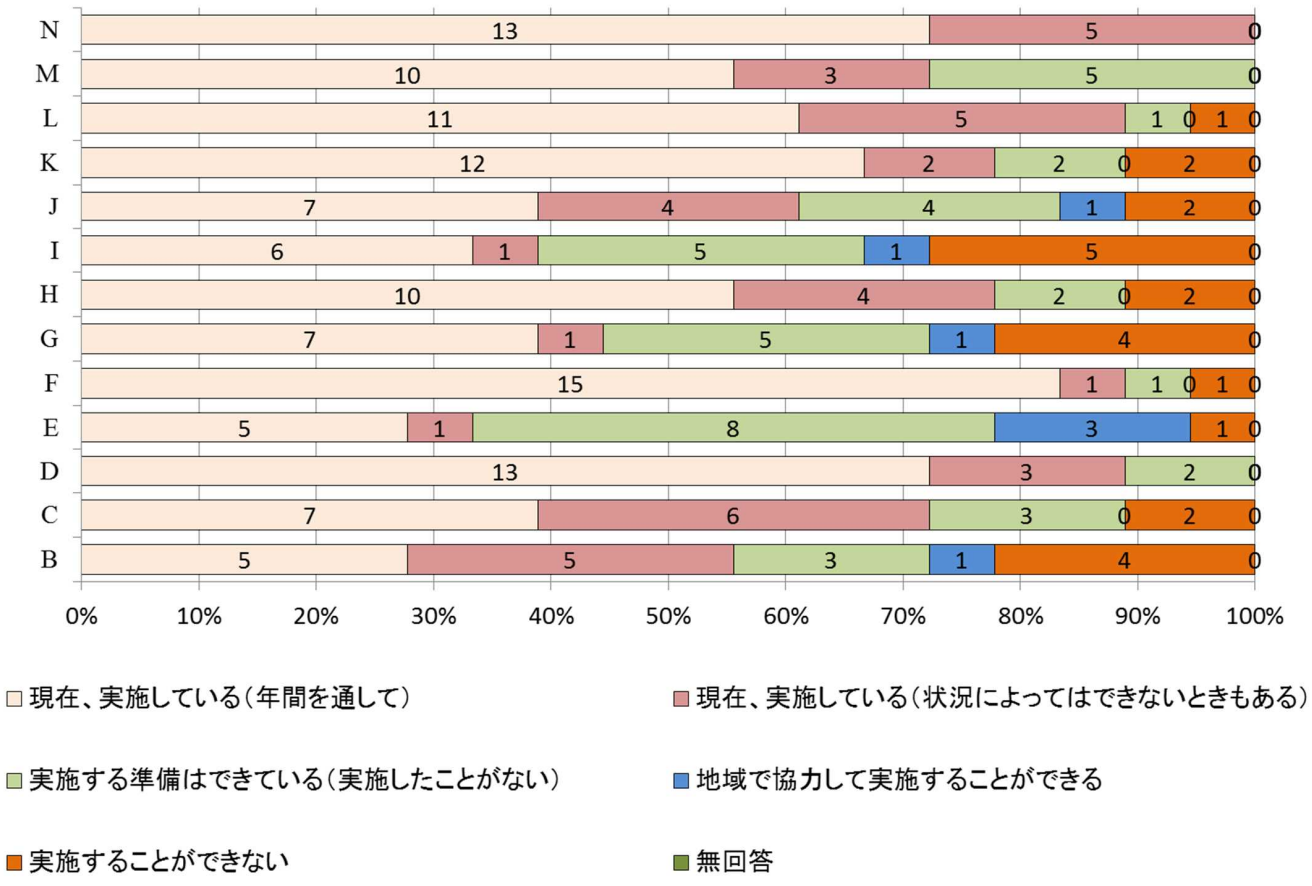
[B] 終末期医療の実際を体験する。
[C] 緩和ケアの実際を体験する。
[D] 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
[E] 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。
[F] 病院内あるいは在宅医療において注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を体験する。

[G] 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）の実際を体験する。
[H] 周術期医療の実際を体験する。
[I] 周産期医療の実際を体験する。
[J] 小児医療の実際を体験する。
[K] 外来化学療法の実際を体験する。
[L] がん化学療法のレジメンチェックと抗がん剤調製やケミカルハザードの回避操作を体験する。
[M] 代表的な疾患を有する入院患者の薬物治療に継続的に関わり、患者に関する情報の収集と伝達、治療計画の考察、治療効果および副作用の評価等他の医療スタッフとの協働を、複数の病棟活動の中で体験する。
[N] カンファレンス、種々の医療チームの活動（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）への参加等、他の医療スタッフとの連携を体験する。

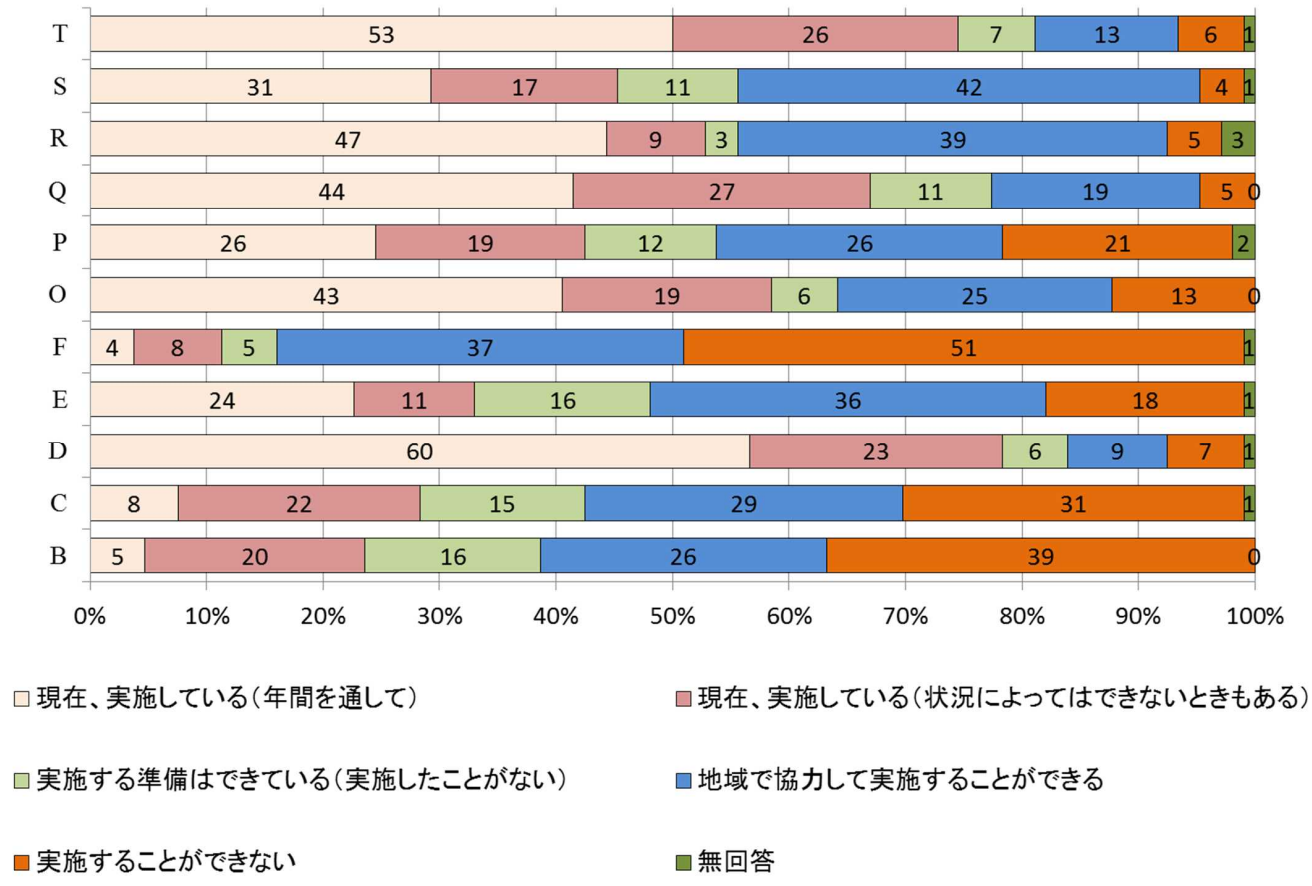
滋賀県　薬局（n=72）



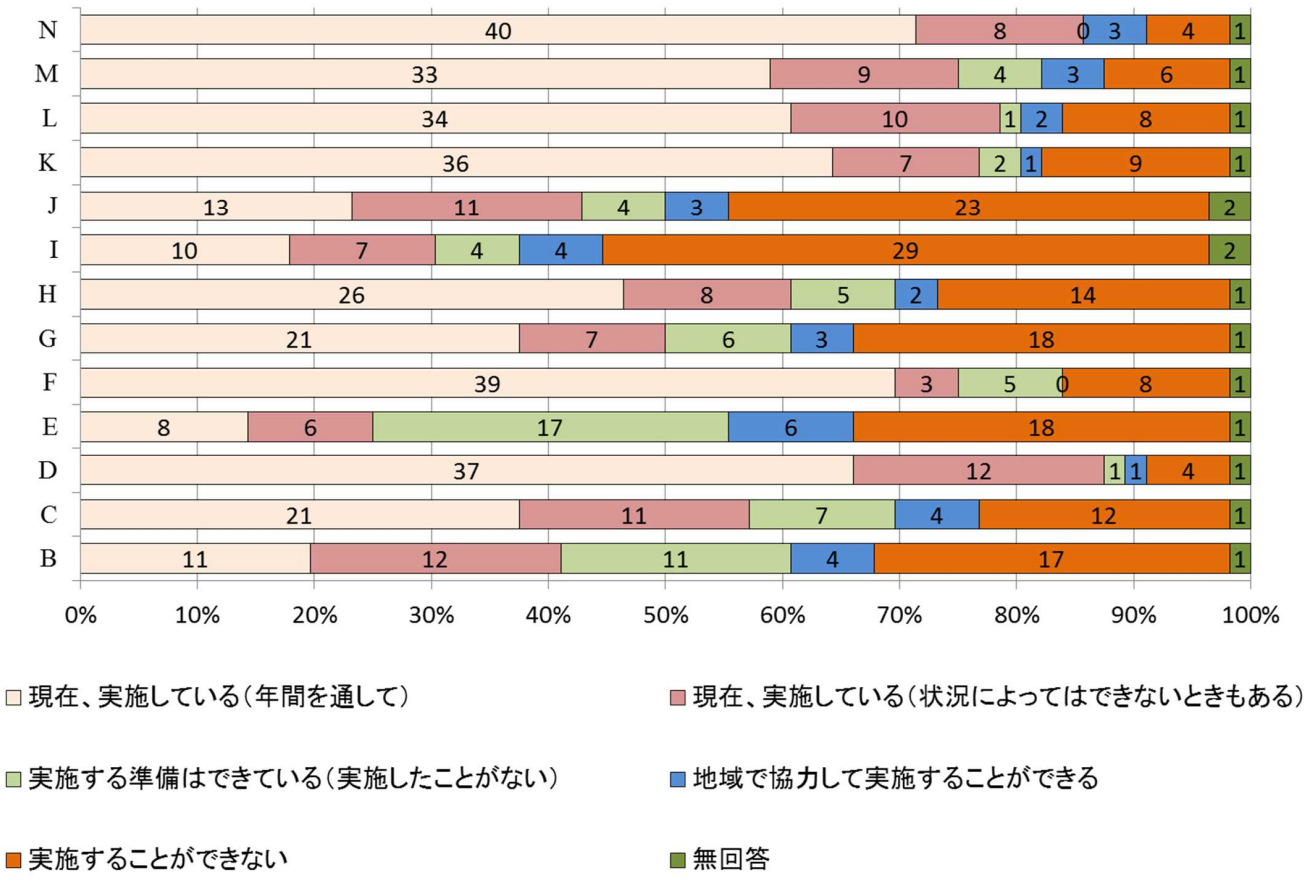
滋賀県　病院（n=18）



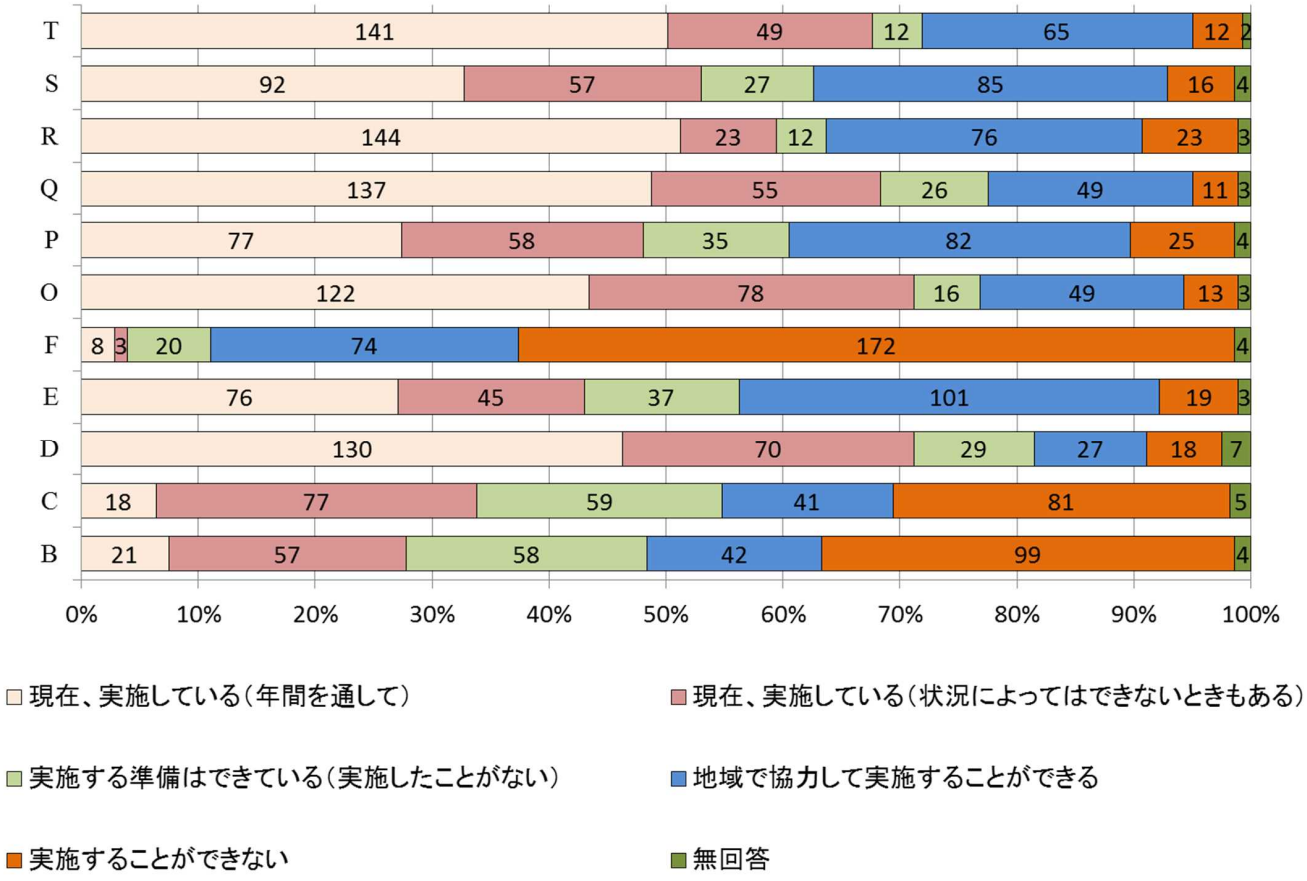
京都府　薬局（n=106）



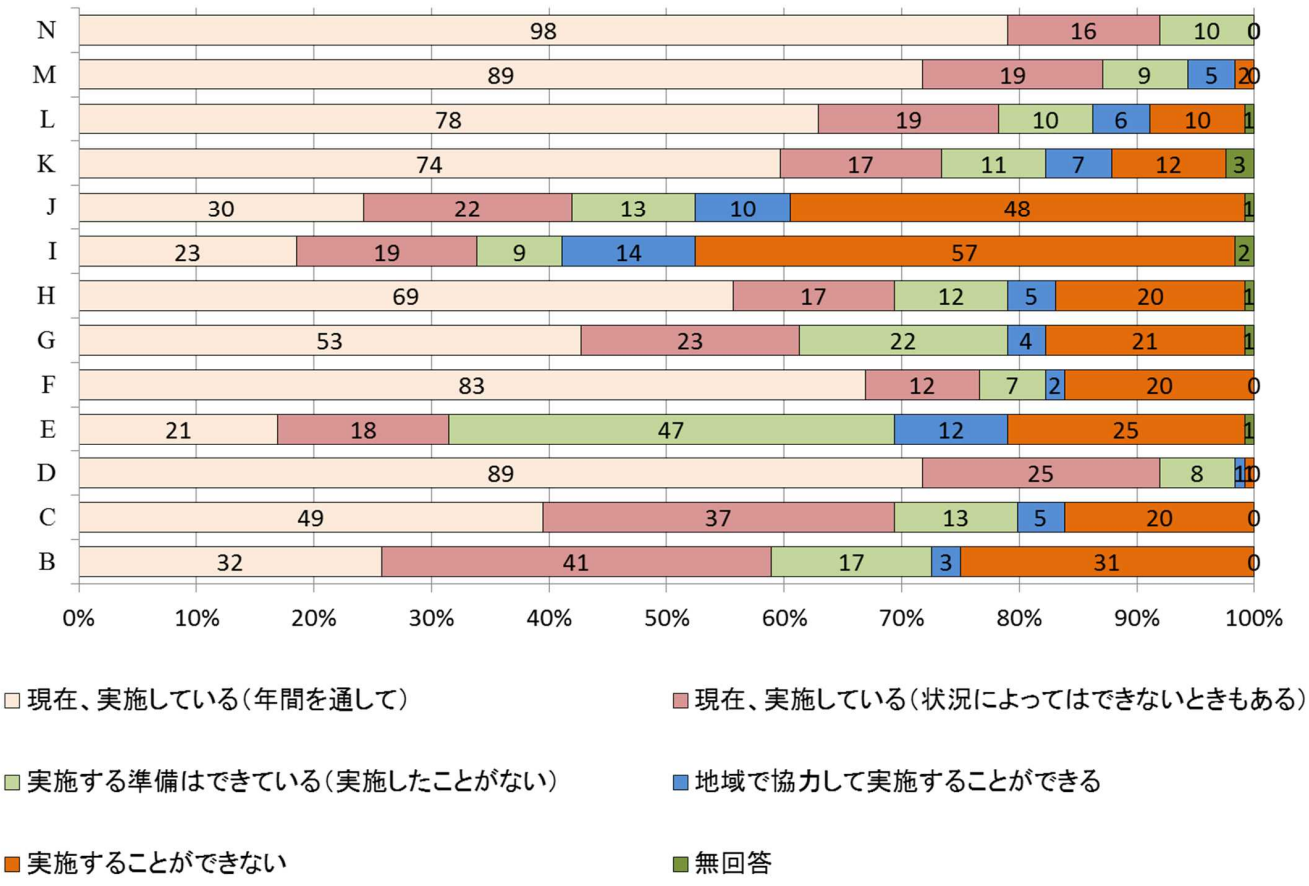
京都府　病院（n=56）



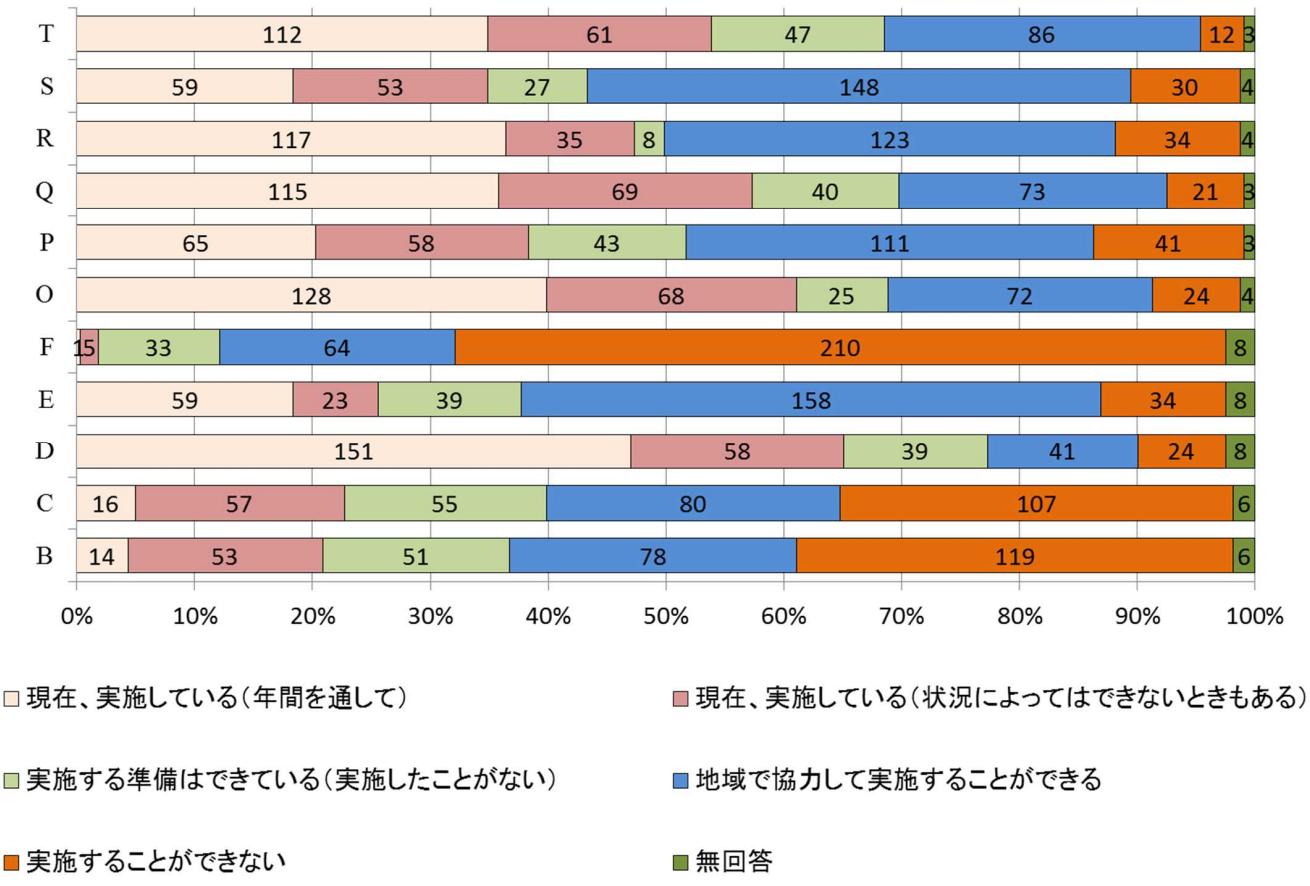
大阪府　薬局（n=281）



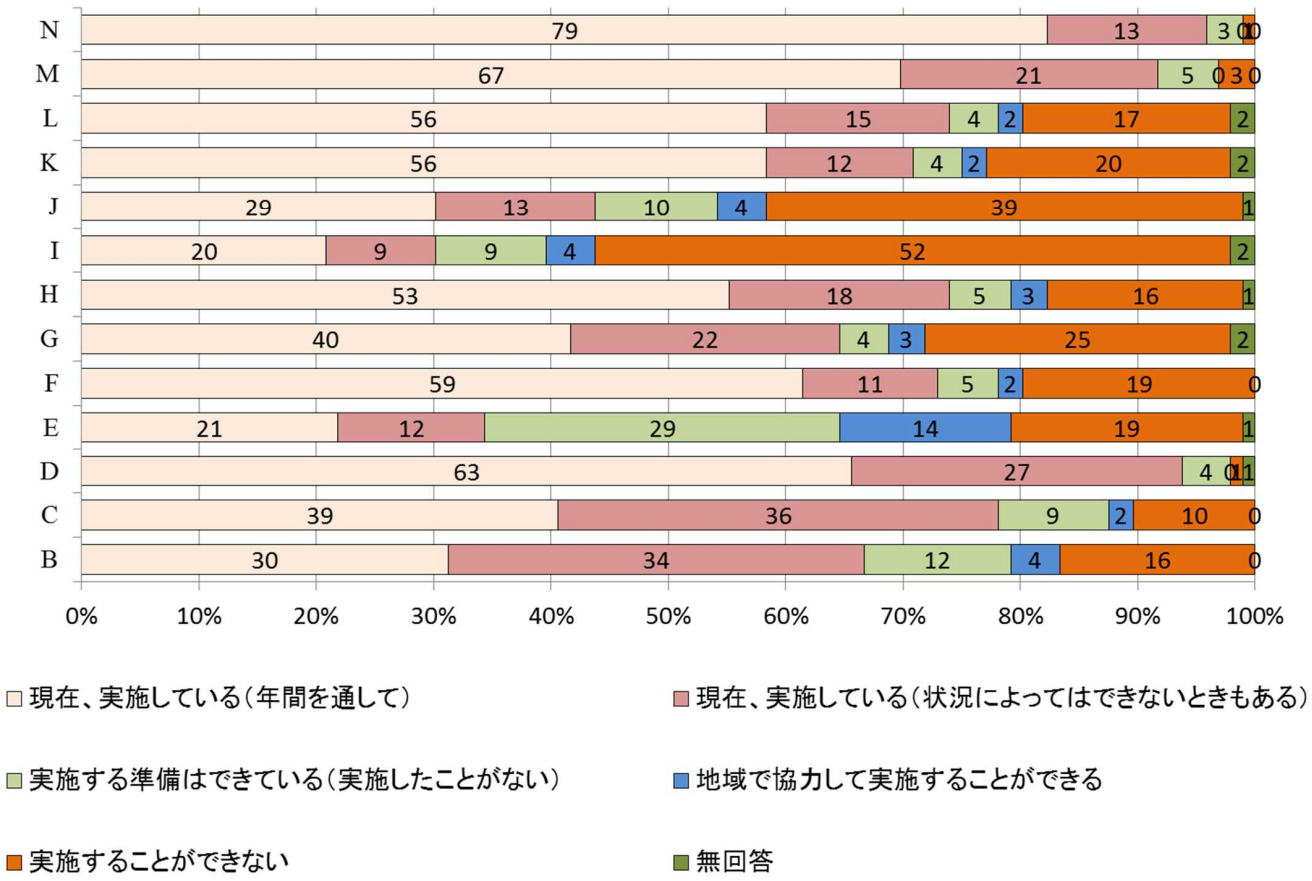
大阪府　病院（n=124）



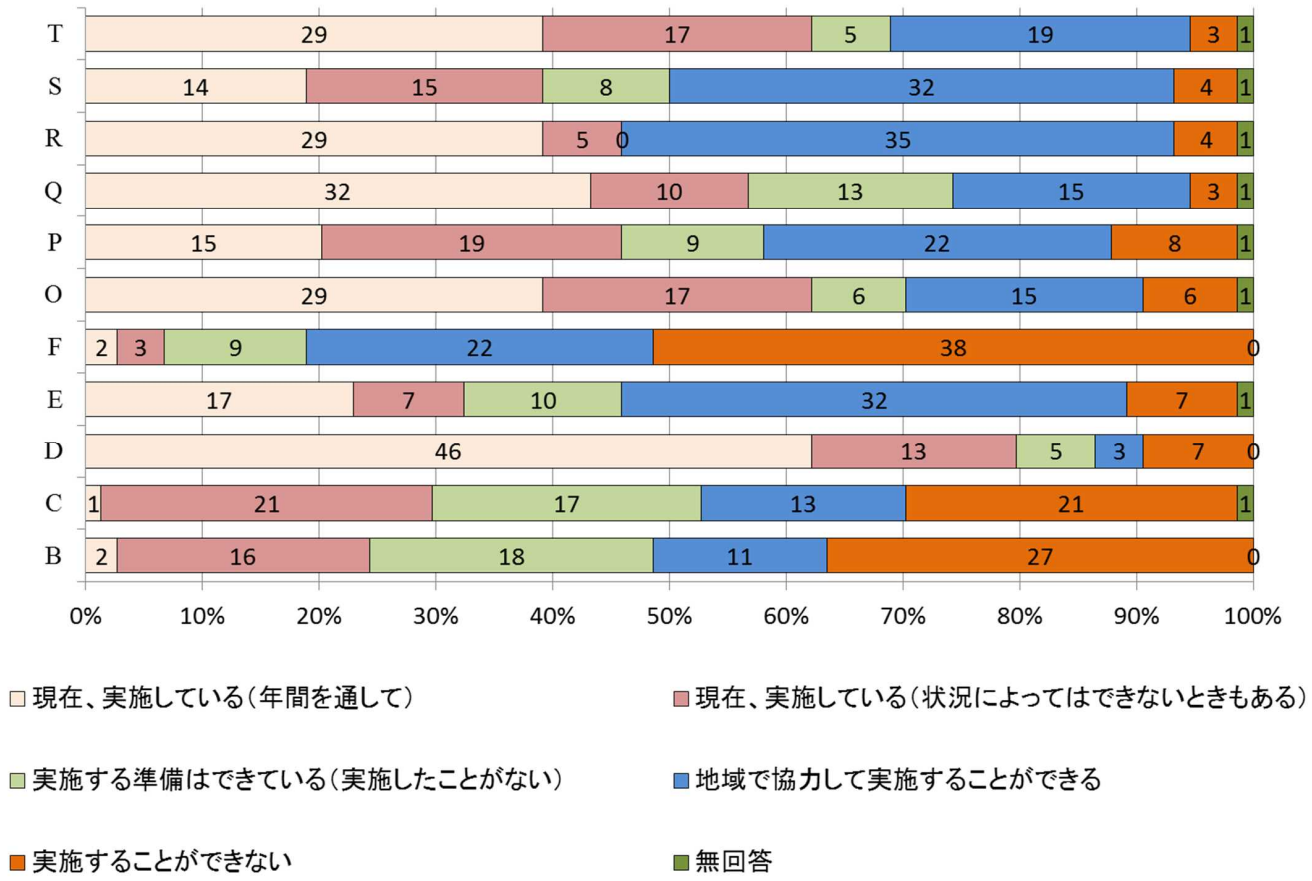
兵庫県　薬局（n=321）



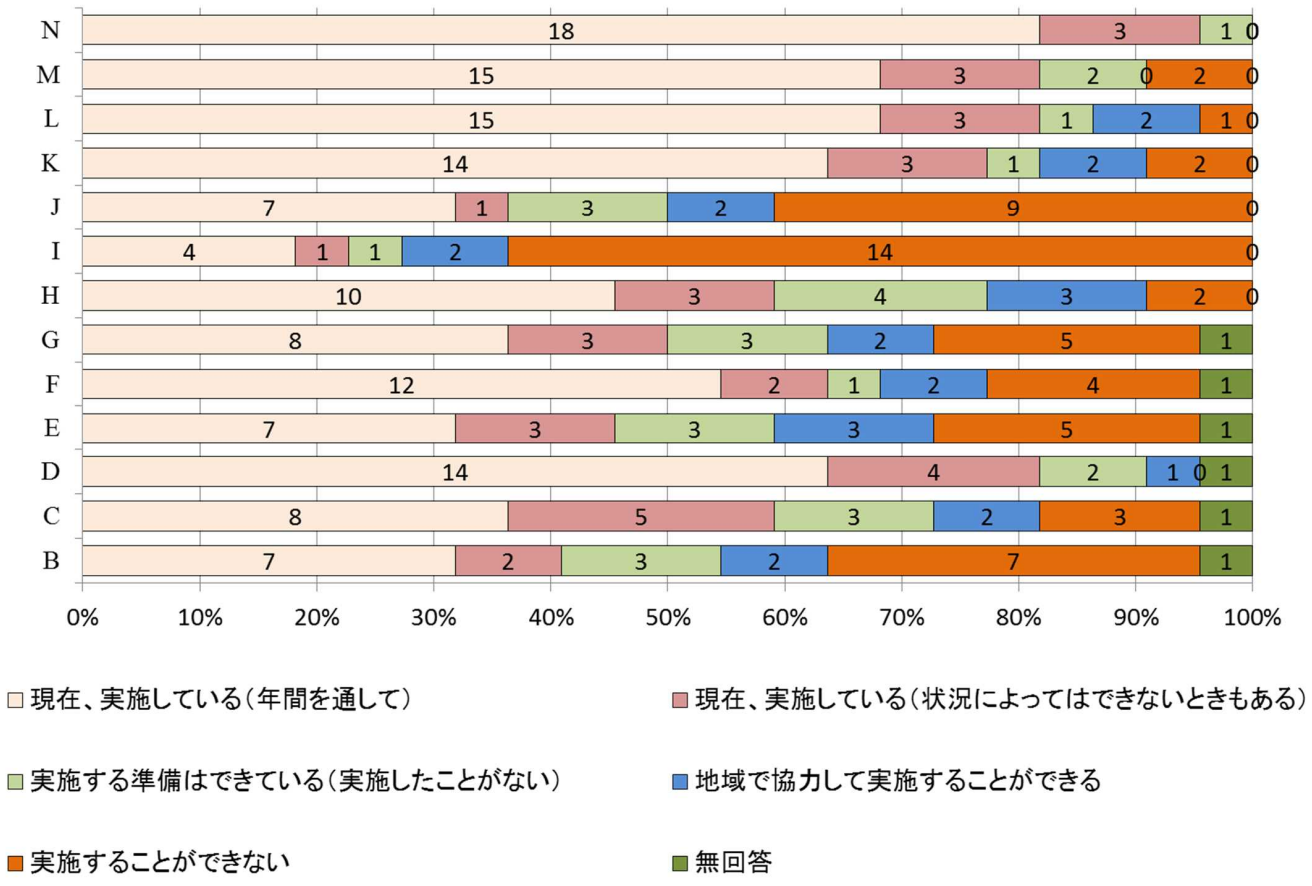
兵庫県　病院（n=96）



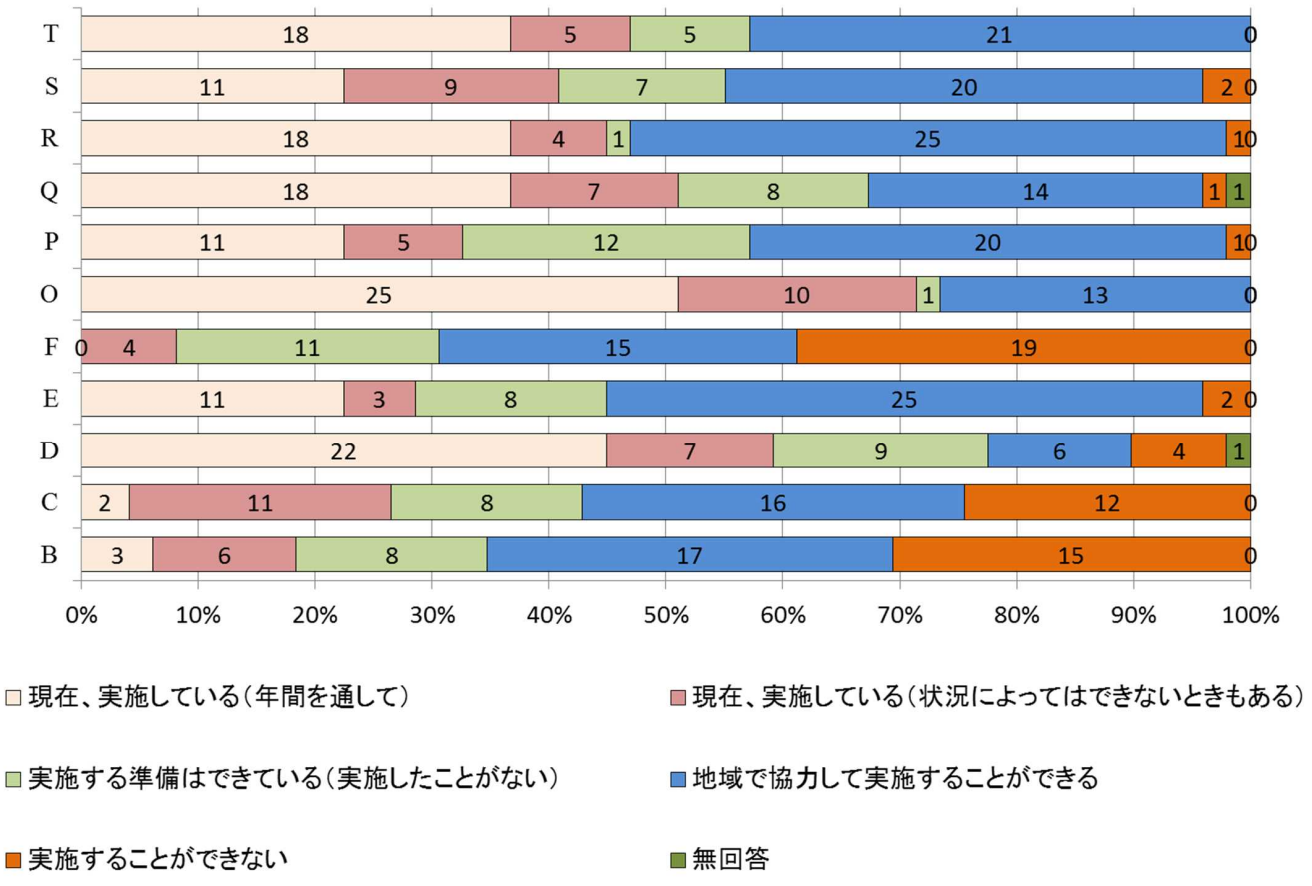
奈良県　薬局（n=74）



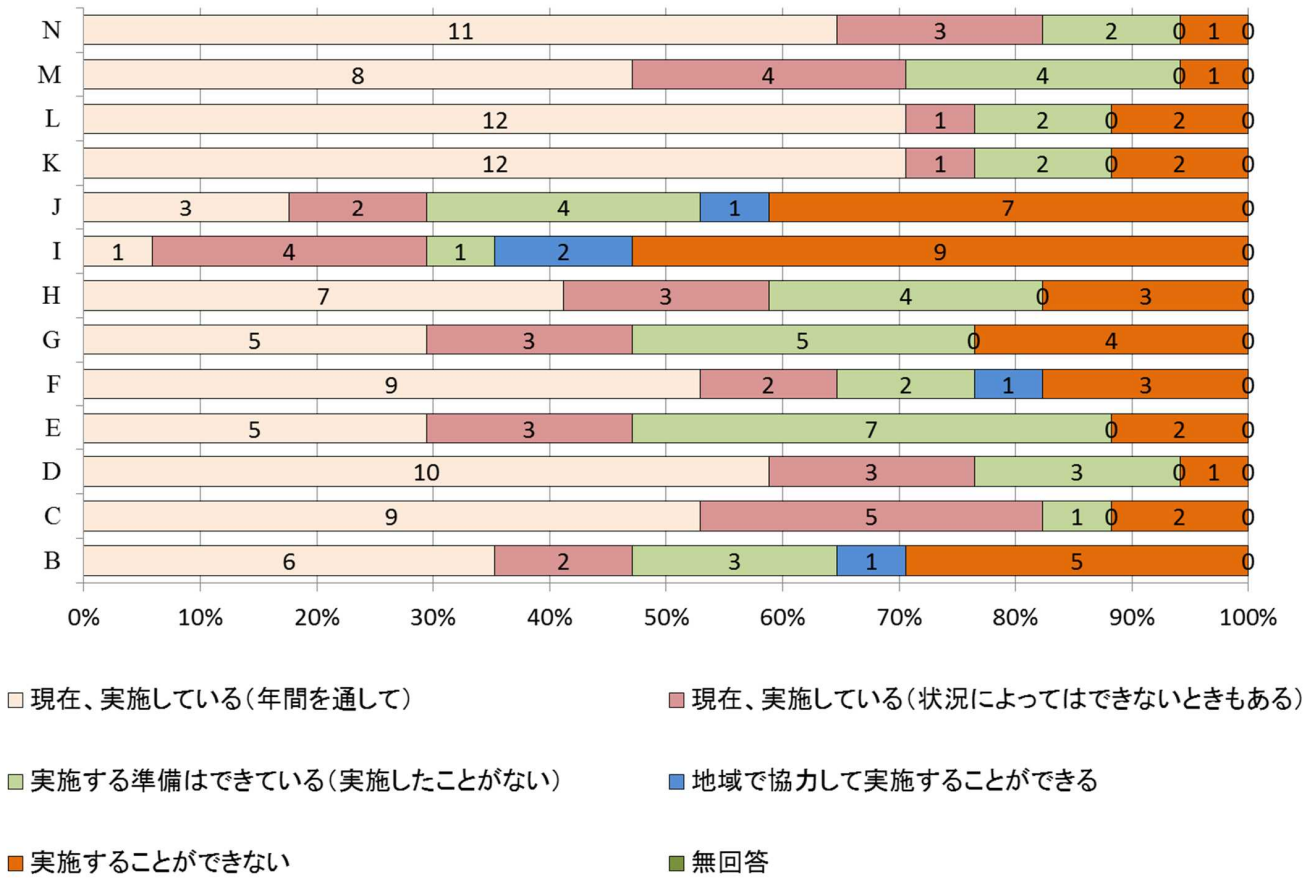
奈良県　病院（n=22）



和歌山県　薬局（n=49）



和歌山県　病院（n=17）


N 11 3 2 0 1 0
M 8 4 4 0 1 0
L 12 1 2 0 2 0
K 12 1 2 0 2 0
J 3 2 4 1 7 0
I 1 4 1 2 9 0
H 7 3 4 0 3 0
G 5 3 5 0 4 0
F 9 2 2 1 3 0
E 5 3 7 0 2 0
D 10 3 3 0 1 0
C 9 5 1 0 2 0
B 6 2 3 1 5 0
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
現在、実施している（年間を通して）
現在、実施している（状況によってはできないときもある）
実施する準備はできている（実施したことがない）
地域で協力して実施することができる
実施することができない
無回答